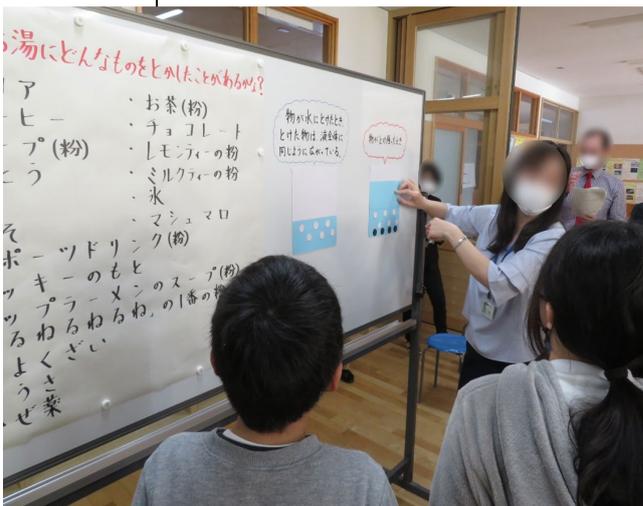


理科におけるユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導の工夫

「ヒントコーナー」

子どもについて	学部・学年・学級	小学校・5学年・通常の学級・特別支援学級（知的障がい）
	障がい名等	知的障がい 他
	子どもの実態 （学習上又は生活上の困難さ等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師や友達と簡単なコミュニケーションをとることができるが、言語による全体の指示を理解したり、抽象的な言葉を理解したりすることが難しい。 ・ 同年代の友達関係が良好であり、多くの教科で交流及び共同学習を実施している。
授業について （教材・教具を使用した授業や指導場面）	教科名等	理科（交流及び共同学習）
	単元(題材)名	物のとけ方
	単元(題材)の概要	身近な素材の食塩やミョウバンをより多く水に溶かすにはどうすればいいか、生活経験をもとに考え、実験方法を工夫して確かめていく。
教材・教具・支援機器について	教材・教具・支援機器	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導の工夫 「ヒントコーナー」
		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 黒板とは別に、教室脇に「ヒントコーナー」を常時設置し、いつでも確認ができるようにした。 ・ 全体の指示だけでは、めあてや学習課題がつかめなかった児童に対し、モデル絵など視覚的に分かりやすくした教材を使ったり、教師とやりとりしたりできるようにした。 ・ 特別支援学級の児童だけでなく、希望した児童が全員使えるようにした。 	
ねらい・工夫点等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物が水に溶けている（水溶液）の状態や、物が解けないで残っている状態をモデル絵で確認した。 ・ 溶けている物質は白<○>、溶け残っている物質は黒<●>で区別した。 ・ 溶け残っている物質<●>を溶かすためには、どうすればいいのか、教材を見ながらやりとりし、学習課題に気付けるようにした。 	
材料・作成方法等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 模造紙や画用紙で自作 	
子どもの変容や評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 約5～6人の児童がヒントコーナーに集まり、モデル絵を使って教師とやりとりしながら学習課題について確認する様子が見られた。 ・ 特別支援学級の児童も学習課題が分かり、お湯を入れることなど実験方法について自分なりに考えて発言することができた。 	